

第六回

まつりどうじ

「祭童子あつまれ」

らくぶん

楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

君のお祭りの楽しさを教えて下さい。

詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。

一行でも、誤字・脱字、せんぷひらがなでもOK。

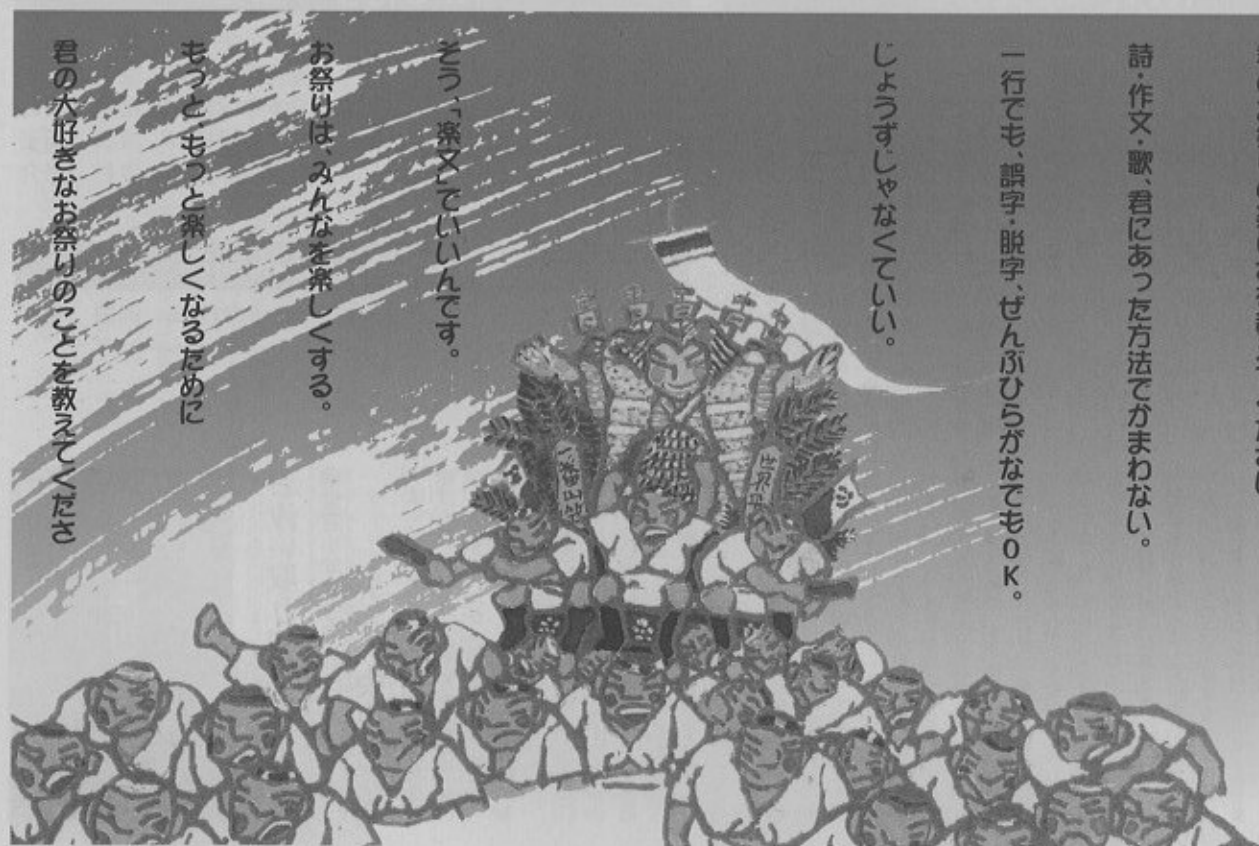
ついでにしゃなつてい。

まつり楽文でいいんです。

お祭りは、みんなを楽しくする。

まつりもつと楽しくなるほめ。

君の大好きなお祭りのことを教えて下さい。



主催: **博多の風**

協賛: 博多祇園山笠振興会

NTT DoCoMo九州

日本アイビーエム株式会社

協力: (株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、九州朝日放送(株)

選考委員: 波多江五郎氏 (博多祇園山笠振興会 会長)

加藤信夫氏 (毎日新聞社 西部本社福岡本部編集局長)

三石多門氏 (株式会社NTTドコモ九州 代表取締役副社長)

沢田幸二氏 (KBC九州朝日放送 パーソナリティ)

大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)

後援: 福岡市、福岡市教育委員会、九州経済連合会、福岡商工

会議所、(株)岩田屋、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、

(株)九電工、コカ・コーラウェストジャパン(株)、西部ガス

(株)、西日本シティ銀行(株)、西日本鉄道(株)、西日本電

信電話(株)、(株)福岡銀行、(株)ふくや

第14号

平成18年10月発行

祭り童子集まれ! 楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

博多祇園山笠振興会賞

- 「お汐い取りでほめられた」 愛宕小学校3年 宍田 亮太
- 「子ども山笠に参加して」 博多小学校6年 松井 純平
- 「山笠への思い」 博多中学校1年 松上 弘在
- 「一年に一回のお祭り」 博多中学校2年 室田 莉紗
- 「団結力と山笠」 博多中学校3年 与田万紗子

NTTドコモ九州賞

- 「はく力満さいこれが、大人山たい」 博多小学校5年 入江 菜子
- 「博多どんたく」 博多小学校5年 久島 早紀
- 「博多山笠」 博多小学校6年 竹田 義基
- 「山笠おんど」 博多中学校2年 美川 優太
- 「伝わるよ～山笠～」 博多中学校3年 高内 麻莉
- 「山笠はみんなのもの」 博多中学校3年 長谷川里穂

日本アイ・ビー・エム賞

- 「山かさだいすき」 博多小学校2年 待永 くらら
- 「走れ子供山笠」 博多小学校6年 遠藤 智
- 「山笠で学んだこと」 博多中学校1年 高橋 良輔
- 「祭りがあるけん博多たい」 博多中学校2年 遠藤 薫子
- 「奉納踊りで学んだこと」 博多中学校3年 田中 成美

毎日新聞社賞

- 「楽しい山かさ」 博多小学校2年 神代 新
- 「山笠で学んだこと」 博多小学校6年 高村 恵祐
- 「こんな料理がおいしいと思います」 博多小学校6年 濱地 美桜
- 「夏のかおり」 博多中学校1年 本田奈子多
- 「博多山笠」 博多中学校2年 吉村 和晃

NPO博多の風賞

- 「たのしい山かさ」 博多小学校2年 畑 捺穂
- 「みんなの山笠」 博多中学校1年 金子 優美
- 「みんなと祭り」 博多中学校1年 高橋 謙太
- 「博多のほこり、山笠」 博多中学校2年 白石 麗奈
- 「生まれて三回目の一番山笠」 博多中学校3年 中村 洋介

NPO博多の風特別賞

- 「山笠」※ビデオ 福岡雙葉学園中学校3年 岡田 夏子
- 映像はNPO博多の風ホームページにUP予定です

博多祇園山笠振興会賞

お汐い取りでほめられた

●愛宕小学校3年

宍田 亮太

ぼくは、今年も山笠にできました。最初は宮崎宮まで走ってお汐い取りです。初めは「暑いかなあ。きついかな」と思うけど、ぼくは、四さいのときから走っているの、自信があります。

出発する前、安武のおじちゃんから、「せい太の面どう見てね」とたのまれました。せい太君は、「五さいの年長さんです。ほくも、このころは足がいたくて泣いたこともあるの、面どうを見てあげようと思いました。せい太君に声をかけると、うれしそうにわらいました。

詰め所を五時ぐらに出発しました。でも、太陽はギンギンといて、とても暑いでした。でも、みんなで、「オイサ、オイサ」と元気を出して走りました。

せい太君は、去年初めて参加したとき、フラフラになって、お父さんに手をひきずられるようにして走っていました。ぼくが手を引くとおぶないで、すぐ後ろを走ってあげました。そしてときどき、「せい太、がんばれ」と、声をかけたり、かたをたいたりしてあげました。せい太君は、だまて「うん」とうなずきながら走りました。

やっと宮崎宮の浜に着きました。ぼくは、「やっと半分走ったな」と思いました。帰りはおとなの人の「オイサ、オイサ」のこえがとても元気がいいです。ビールを飲んだせいかなと思えました。

千代ぐらいに来たとき、大変なことがありました。二年生のマー君の目つきがうつろになっていました。おとなの人たちの顔つきが変わりました。「熱射病になりかけてな

いか」と言っていました。「若手」の人がいそいで自動はんばい機でペットボトルの水を何本か買ってきました。「頭からかける首にもかける」と言つて、マー君にガッツと水をかけました。「ほかの子にも水を飲ませろ」と言つて、子どもたちみんなで水を回して飲みました。

暗くなつてやっと、詰め所に着きました。ぼくは、せい太君がしっかり走れたのでほっとしました。

なおらいの後、ぼくのお父さんが、「今年の亮太はお兄ちゃんになったな。小さい子の面どうをよう見よったな」と言いながら、頭をポンとたたきました。ぼくは、ちよつとうれしかったです。

子ども山笠に参加して

●博多小学校6年

松井 純平

ぼくは、六年生になって初めて、表をかいたときに、とても重い印象があったです。五年生のときに見送りをかいたことがあったけど、表の方が、きつかったです。子ども山笠は、七月二日～三日まで行なわれています。備田入りがあつて、ぼくたちが参加しました。備田入りが必要してくる中、備田入り本番が始まりました。二日目の二回目は、計測不能という結果が出たときは、とてもくやしかったです。でも、二回目は、三十四秒というタイムが出て、まあまあうれしかったけど、まだ力が出せると思っていました。三回目は三十七秒というタイムが出ました。みんなの心が一つになつてなかつたので、おそいタイムが出てしまいました。そして、二日目の日の備田入りが始まりました。一回目三十五秒でした。でも、二回目は二十八秒というタイムが出て、うれしかったけど、まだ力が出せると思いました。先生から、まだやれるというのをきいて元気が出てきました。そして、備田入り三回目に来て、みんながきんちようしてきました。先生たちが、「今日が最後の備田入りだから最後まで、全力でいけよ」と言うのをぼくたちは、聞きました。そして、備田入り一回目が始まりました。タイムは、三十四秒でした。二回目は三十七秒でした。

はく力満さい!
これが、大人山たい!

●博多小学校5年

入江 菜子

七月九日～十五日まで、大人山がありました。私は、「西流なの二なので」なの二の山こやに九日、行ってみると、子どもも、大人も、気合いを入れて、「十五日は、気合いを入れるバイー」などの、声が上がっていました。そして、九日ついに、スタートした「おしおいとり」です。どの流、どの「区」でもたおえ「おいき」というかけ声でも、言い方がちがう事が分かりました。

「みな、初日からはりきっているなー」など私は思い、ずっとながめていました。次の日の十日、「流れがき」がありました。私は、用事で、行けませんでした。声がひびきと聞こえてきて、とても、いっしょうけん命している、気持ち伝わってきました。

その次の日、朝山がありました。私は、私の家の前の山が通っている時、かけ声でおきました。山をかついでいる時、山の人は、とてもふだんではみれない顔をしていました。どんな顔かという、歯をくいしばり、まゆげが上り上がりおてこの真ん中あたりの肉が、ひきしまつて、とても早くいきたい!という、気持ちが伝わりました。

その次の日、「追い山ならし」は、弟が初めて、大人山に出ていて、弟は、ひっししながらも、元気な明るい顔で走っていました。「楽しかった」と聞く弟は「とても、水がかかると、はく力があつて、とても楽しかった」といって家に帰ってきました。

山笠。一瞬にして通りすぎるけどその中にはとても力強く熱い気持ちが入っている。山笠大好き。博多万歳!!

団結力と山笠

●博多中学校3年

与田万紗子

一昨年、私は初めて追い山を生で観ました。去年、博多区の隅にあるマンションから博多全体に響き渡る「おいき、おいき」の力強いかけ声を聞きました。この時、私は博多の町が一体となつたのを感じました。

小学校六年生まで、山笠なんてどこにもあるただの祭りだと軽く考えていました。しかし、二昨年の初追い山の衝撃と去年の、のぼせもんだの迫力を受けて新たな思いを持ちました。そして今年、追い山の二週間前の七月八日は詰め所づくりです。この日、各々の流の小屋が作られます。私はこの日から登下校中などによくはつぷ姿の人達を見るようになりました。また、私のマンションの裏は西流の小屋で、この日を境に二週間毎日のように夕一夜にかけて宴会のようにはつぷを着た人たちがさわぎ、飲んでいました。

そして、子供たちが帰る時や大人の方々が解散する時には、そろそろ手一本を入れていました。

一日に何度も手一本を入れ、楽しそうに集まりさわいでいるのはせもん、その方たちをかなげながら支える「りよんさん」。山はこの連携から成り立っているのだと思いました。

私が山笠を毎年行方にあたり、大切だと思ふのは「団結力」です。山はかつぐ人達がいってそのものだけ、山の人形「体」こりよんさんのおにぎり「個」にしてもさまざまなたちの想いがつまっていて、それなしでは動かない場合もあると思います。かわりばかりがある便利な現代の中で、かわりがあつてはならない私たちがたつたの貴重な財産「山笠」を、そして「博多の祭り」を私たちの「団結力」で守り、いつまでも愛わらず、更に活気あふれた祭りのまち、博多にしていきたいです。

りが今年はトラだった。少し今までと違う雰囲気のかき山だと思った。学校で部活動をして家に帰っていると、

「オイサ、オイサ、オイサ、オイサ」と聞こえてくる。もし、博多に私が生まれていなければこんな体験はしてないと思うと少しだけ嬉しくなつた。山笠のかけ声が聞こえてくるようになって、六日たつた。とうとう明日は追い山。私は山に出れないし、こりよんさんでもないけど、山笠への気持ちはそこらへんのお客さんに負けない自信はある。そういう気持ちもありながら迎えた追い山。櫛田神社での勢いはとても迫力があつてすごく恰好よかった。この博多に生まれてこんな身近にあつて本当に良かったと改めて思つてしまふぐらいの勢いだつた。

小さい頃は、山笠が大きく見えた。今は、大きいというより山をかいている勢いがすごいと思うようになって山笠のイメージが変わつた。山笠には、同じ学校の男子、同じ町内に住んでいる人、知りていない人、いっぱい知っている人がいるけど山笠に出ていいる時は、いつものその人のイメージががらりと変わつて、全く違う人になる。山笠は毎年そうだ。小さい頃は、可愛らしい姿で子供だと実感できていたけど、だんだんと年をとるにつれて、雰囲気も変わつて子供よりも若手の人に近い。大人の仲間入りみたいな所だ。それと同時に私が山笠に対する気持ちというのも変わった。

私は、本当に山笠が好きです。大好きです。毎年毎年、違った山の飾りで迫力も毎年違う。だけど、二つだけ絶対に変わらないこと。それは、気持ち。昔からの歴史はたくさんあつてすばらしいけど、気持ちについての他人には変えられない。一人一人の山笠への想い。きつと一人一人山笠への想いがある。山笠がこれまで続いてきた理由もこのつだと

思う。

もし、山笠が無かつたらこういう気持ちになれなかつたと思う。こんな気持ちになれたのはこの作文を書けることもつだとおもいます。本当にこのような作文を書けるのが、嬉しいです。私は、山笠があるこの博多に生まれて本当に幸せです。一年に二回しかない

はくが、初めて山笠を見たのは、小学四年生の時でした。山笠を見た時にびっくりしました。こんな激しく動いてるのにも関わらず、だれもひるまずにひたすら、前に前にと進んでいる事でした。あと、山をかついでいる男の人もおこ良かつたけれど、その裏で「所懸命に男の人達を支えているこりよんさん」という女の人も良かったと思いました。

あと、その女の人の手伝いがあつたからこそ、この祭りは成り立っているとはくは思いました。そして、この祭りは、地域の団結が深まったり、協力し合う気持ちがあつてこそできる祭りだと思ひました。山笠は、この博多の地域の人達の心が一つになれる伝統深い祭りだと思ひました。

はくが、小学六年生になつたころ、子供山笠の人形を作り始めました。その時ははくは、今まで山笠にも出た事なかつたし、自分達で作つた人形の山だけでも、かついで博多の町を走つてみたいと思ひました。そして、ついに人形が完成しました。人形は弁慶です。はくは、山笠の申し込みも終つて、山笠に出る準備をしました。山笠当日、はくは初めて、締め込みをしたし、子供山笠も初めてだつたので、とてもきん張りました。みんな山笠の準備も終つて、自分の場所につこうとしていました。何十秒かしたあとに、カウントダウンが始まり、そして、「やあー」と大きい声が出ると同時に山が動き出しました。その時、きん張し過ぎて、あまり声が出ませんでした。だけれど、走っている内に、きん張が解けて、大きい声で「オイサ、オイサ」と言っていました。そして、子供山笠の三日間があつたという間に過ぎて行きました。

一年に二回のお祭り

●博多中学校2年

室田 莉紗

「さよなら。」

クラスの男子が帰つていく。山笠が始まったからだ。そう、博多の町で一番最初にある博多祇園山笠。ここから夏が始まる。

今年の一番流は恵比須流。私が小さい頃に出ていた流だ。毎年恵比須流だった山の飾

もう後がないと思ひました。心の中で、「絶対いいタイムを出してやる」と思ひ、応援しました。そして、二十一秒というタイムがでました。目標は二十一秒を切ることだったので、とてもうれしくて、みんなが、大泣きをして、うれしうれていました。先生たちも泣いて、「よくやった」とほくたちをほめてくれました。「後は、学校まで、持つていくだけぞ」という先生の声で、元気づけられました。今年の目標は、「強心速」という目標でした。意味は、強い心をつにして、速いタイムを出すという事です。ちゃんと目標に合ったことができたのでよかつたと思ひました。学校では、こりよんさんが待つていました。「がんばれ」と言う声で、元気づけられて、最後まで山をかくことができました。こりよんさんたちが、おいしいフタ汁をつくつてまつてくれていました。山が終つて、女子たちが作つた、おにぎりやフタ汁を食べました。

とてもおもしろいです。来年は中学生で子ども山笠に参加できないけど、来年の六年生たちがんばつてほしいと思ひます。わからないことがあつたらおしえてあげたいとはくは思ひました。大人になつても思ひ出に残るいいタイムが出せたのでとてもうれしうてです。

はくたちのお世話をしてくれた地域の方々本当に感謝をしています。みんなが応援してくれたのでいいタイムが出たんだと思ひます。来年は、はくたちをこえるタイムを出してほしいと思ひます。それには、みんなの心が一つにならないと、いいタイムは出せません。そのためにも、来年の六年生の人たちには、本当にがんばつてほしいとはくは思ひました。

山笠への思い

●博多中学校1年

松上 弘在

はくは、元々韓国で生まれて、お父さんの仕事の都合で、日本に来ました。そして、ある日に、この福岡に来ました。はくは、この町に来て、初めて山笠と言う祭りのことを知りしました。

次の日の十三日は、集団山見せですが、私は先回りして親といっしょにくし田神社で見えました。そして、番最初に来たのが、「えびす流」でした。やっぱり、みんなき合がはいつて、とても速かったです。そして、ついに、西流が来ました。やっぱり速かったですし、顔が以前より、とても十倍くらいの顔をしていました。

そして、ついにやってきた「追い山」ですが、私はその日見に行けませんでした。しかし、おそかろうが、速かろうが、全部の流は、いい顔だと思つたので、またその顔を、生でみたいと思つています。なぜか、年に二回しか、みれない顔だからです。

博多どんたく

●博多小学校5年

久島 早紀

私は、博多どんたくの、ちびっ子どんたく隊に出ました。

それで、最初は、千鳥屋のお店の中で、どんたくの中でなじみ深い「どんたくばやし」をおどったり他の曲もおどりました。三曲目の曲は、毎年変わります。三曲ともおどり終わったら、次は、原三信病院前に来ると、原三信病院に入院している人が車いすにすわつて待っていました。

そして、また、三曲おどりと終わると、かん者さん達が、笑いながら、はく手をしてくれたので、すくきんちようしていた気持ちも、いい感じになりました。

次は、さくら園と言う所に来て、私達が来た時には、まだ、太このパレードがあつて、私は「わー、あれだけ、するのは、私達より前からずっと練習したんだろうな」と思つていたら、私達の番が来て、原三信病院で、おどつた時よりも人が多くて、さくら園に住んでいるおじいさん、おばあさんがたくさんいて、観客の人もいて、すくきんちようとして、三曲ともおどりと終わると、はく手がまた出て、うれしかったです。

次はパレードで、れい泉公園まで歩いて、いよいよ本番ですと待つて、おどる時は、さくら園でおどつた時よりも、人がいて、すく

博多山笠

●博多小学校6年

竹田 義基

山笠は、人形と表台の上にいる人だけを運ぶのではない。

喜びと感動を運んでいるのだ

山笠をかく人は夢を持ち

その夢を

見ている人全体に
伝えようとしているのだ

山笠おんど

●博多中学校2年

美川 優太

オシヨイオシヨイ七月一日

今年も山笠が始まるばい

オシヨイオシヨイ七月九日

全流でのお祝い

あつたー水が欲しいかたい

オイサオイサ七月十日

ついに山笠が動きだす

一年ぶりの山笠は

やっぱり博多の血がさわく

オイサオイサ七月十一日

ねむかー今日は朝山ばい

いつもは山につくけれど

今日はかんべん半分ねてます

オイサオイサ七月十二日

今日はついに追い山ならし

追い山にむけてのシミュレーション

山についていてつきまぐる

オイサオイサ七月十三日

今日は集団山見せたい

天神の街に山笠登場

みたかこれが山笠ばい

オイサオイサ七月十四日

あと二日で山笠がおわる
なんだかちよとさびしいな
オイサオイサ七月十五日
今日はついにラストの追い山
博多を愛する博愛人(ハート)があれば
ねむいなんて言えないよ
誇り山笠魅せちゃうばい
七月十五日の午後には
山めぐりしてももう遅い
博多の町が妙にすずか
来年にむけてがんばるたい

伝わるよー山笠

●博多中学校3年

高内 麻莉

聞こえるよ
あなたの声
伝わるよ
君のよるび

私は見ることしかできないけれど
あなたが伝えてくれるこの声は
私にとりては最高の宝

見えてるよ
君の姿
伝わるよ
あなたの楽しさ

応援することしかできない私に
白いはつびの君は手をあつてくれた
とつてもうれしかった
私にとりて最高のプレゼント

山笠はみんなのもの

●博多中学校3年

長谷川里穂

「山笠なんて、男だけの祭りに、今まで私はそう思っていた。私は三年前に博多に来たばかりなので、正直山笠に興味はなかった。だけど今は違う。山笠は、尿き手の男の人ばかり、山の飾りをつくる職人さんから男の人たちを支えるりよんさんまで、山に関わる全ての人のおかげだと思つている。」

私の通う博多中でも、五月の運動会で生徒だけの「博中山笠」をした。取締や赤手拭は生徒たちで、標旗づくりから山台人形づくりも地域の方々の手をかりながら自分たちでやることになった。私は、提灯をつくるコースだった。小道具だらけで、つくるのはとても大変な作業だった。時間も手間もかかった。初めは何も思わずにつづっていた私も、作業を進めていくうちに「山笠を走らせた」という思いが自然にこみ上げてきた。

そして本番一週間前、私はよくわからぬ理由で、先生から「りよんさん長」の二人に任命された。仕事は、棒メめるときにご飯を作つて、男子や地域の方々にふるまうこと。私を含む四人のりよんさん長は、雨の中買い出しから始めた。電卓を片手に九十人分の材料を選ぶのは思ったより難しいことだった。しかも傘を持つて行くのを忘れたので、両手で六キログラムくらいありそうなの荷物で、雨の中ひびひ言いながらかかえて帰つた。その時改めて、りよんさんの苦労がどれくらいなのか、少しわかった。私たちは、どん汁とおにぎりを作つた。みんな「おいし」と言つて食べてくれたので、嬉しかった。

本番、二つの流とも大成功だった。何ともいえない感動を、私は味わつた。この「感動」は、実際に山笠に関わらなければ、味わうことのできない感動だった。

山笠を走らせるまでの道のりは、決して平らではなかった。何回も中止になりかけた。でも私たちは、山が走るほんの二十秒くらいのために、たくさん時間をかけ、「自分たちの山」を創ることができた。

私たちの山は、生徒だけでなく、先生方や大勢の地域の方々のおかげでできた。山をつくりあげた一カ月間、私達生徒は全員「山のほせ」になつて必死で頑張つた。だから立派な山ができたのだと思う。博多祇園山笠も同じだ。いろいろな人が「山のほせ」になつて皆つになるから成功するのだ。山笠に男も女も関係ない。山笠は、山に燃える全ての「山のほせ」のものだ。

日本アイ・ビー・エム賞

山かさだいき

●博多小学校2年

待永 くらら

わたしは土いながれで、いろいろな人たちが、がんばつてるな」と思いました。

きょう年、子ども山でしめこみをするのがいやでした。だけれど、かいいしめこみをするのがいや、やるきがでました。それで、だいいしめこみをした、いろいろな人が水をかけてくれたり、おうえんしてくれて、わたしは、とてもうれしかったんです。そして、あとおしをして、ころんで、いたかたけど、またさいいまではりました。山かさは「とてもいいおまつりだな」と思いました。おとうさんがおと山山に、山をかついてました。私は「おもたくなかなー、だいいじょうぶかなー」と思つていました。ほかのながれの子ともたちも、よくがんばつていました。おとうさんといっしょに、だられてうれしかったです。

しょうほうの人たちが水をかけてくれ、きもちよかったです。こんどもおと山山にも子ども山にも、だいたいな」と思っています。

走れ子供山笠

●博多小学校6年

遠藤 智

ぼくたち、六年生は最後の子供山笠です。

今年、ぼくたちは、一番重要な表をかくことになりました。今年の人形は、孫悟空です。

そして、課題は「強心二速」という課題になります。意味は「強い心をつにして、速いタイムを出す」です。ぼくは、強心二速は、とてもいい言葉だと思つています。なぜなら、この言

山笠で学んだこと

●博多小学校6年

高村 恵祐

この山笠で、はくは三つのことを学びました。一つ目は、みんなと協力し合う事です。これは山笠の人数を作るときに学びました。それぞれグループに分かれ、グループの中の人達で協力をしたけど、最後に人形を組み立てるときには、全員が作った部品をつけて一つの人が完成するから、みんなが協力し合って作ったということになります。

二つ目は、最後まであきらめない事です。これは山笠でくし田入りをする時に学びました。くし田入りは、一日に三回行われ、二回目は測定不能でした。三回目は三十四秒でした。三回目も同じでした。一日目はこれで終わり。三回目だけ。二日目になるにつれてどんどん速くなってきました。そして最後は、二十一秒というタイムを出しました。目標の二十秒は、あと二秒のところまで達成できませんでした。これで三日目、最後の山笠は、これで終わりました。が、最初の二日は測定不能でしたが、時間がたてばたつほど、気合いが入って二日目は、一日目より速いタイムを出しました。そして三日目、最後の日は三十二秒というすごいタイムを出しました。このタイムが出せたのは、二人一人が最後まであきらめずがんばれば、何事もできるということ、子供山笠、みんなが教えてくれたからです。

三つ目は、感謝をするということです。これは子供山笠があつたときに学びました。今まで、人形作りの手伝いをしてくれ先生達や、終わりでついてきてくれた先生達、山笠に出ない子供達、地域の人達や、河原さん達、みんなの帰りを待っていてくれるから、みんな大変です。はくは達がいらないことをされても、はくは達が恩を返すことは、心の底から感謝をして、お世話になった人達に出会ったら「ありがとう」と言うだけです。でも「ありがとう」も心の底から感謝をしているんだし、博多小の先生達も、河原さんや、地域の人達にも心の底から感謝をしているんだから、自分達、子供山笠に参

加した子供達も心の底から感謝をするということ、恩を返したうちの二つに入ることになります。子供山笠が終わって、先生達の集まりがありました。その話を聞くと、おたがいに「今日はありがとうございませう」「いえいえ、こちらこそありがとうございませう」という声が全体で聞こえて、おたがいにお返しもしていました。こんなにおじぎをして、お礼を言うのは、はずかしくてできないと思うけれど、「ありがとう」と言うのは、いいです。

こんな料理が いいと思います

●博多小学校6年

濱地 美桜

私は「こりよんさん」グループで、みんなが子供山笠でつづけて帰って来る男の子達のことを考え、あれがいい、これがいいなど色々な意見を聞き出し、「こりよんさん」女性の会の人々に話を聞いて、そのことを取り入れながら、話し合いました。結果は、ぶた汁とおにぎりです。本当は、ぶた汁とぶた汁を混ぜ、閉じ入りぶた汁になるはずでした。でも「こりよんさん」の人が大人の人は、戦争のことを思い出してしまふから、ぶた汁になりました。それから、試みに作って、たくさんの人達が食べるので、分量を計算して、材料を校長先生や教頭先生に頼み、本番に向けてたくさん準備をしました。去年の六年生は、帰って来る時に、横たん幕を作ったそうなので、山笠の応援をしたあと、急いで学校に行つて、料理を作り、エレベーター階段を使って、みんな協力して、料理をばらばらしました。そして山笠をかけた男の子達が帰って来ました。横たん幕を上げて、おでむかえをし、とてもつづかれた男の子達に、ぶた汁とおにぎりをわたくして、そうしたら「おかわり」と言ってくれる人や、おいしかったといってくれる男の子達もいて、もうとてもうれしかったです。

女の子は、山笠には出られないけれど、「こりよんさん」として、支えて、心で参加するこ

とができる。これから、「こりよんさん」のお手伝いができるようになり、「こりよんさん」としていつかは、支えていくのだから、もっともとおいしく料理を作れて、ずっとずっと支えていけるようにかんばつていきたいと思います。

夏のかおり

●博多中学校1年

本田奈子多

「三、二、一、ヤー」オイスアアオイスアア。夏のつゆがあけて、かえるの合唱が聞こえなくなり、やがてせみのなき声が聞こえてくる。また博多に夏がやってくる。あつくてあつくてキラキラとかがやくあせがながれます。そんなあつ夏が、この博多の町にやってくる。夏になると博多の町がさわやかです。それは山笠にける男達の情熱であり、この町のほこりでもある。山笠のきせつになると、山笠のおいがする。それはかきなわと水がたされたようなかんじ。このおいは博多の山笠ならではのホッとさせるかんじ。

私はそのおいがあつた博多であり、山笠だ！ってかんじです。私が思うにこれは二つの博多の名産物だと思います。私はこの大好きな博多の名産品や山笠たいを見れるのもイイけど、自分自身でかんじでもらつて、毎年夏になるとかんじるあの胸があつくなるかんじを世界の人達にも伝えたいと思います。たくさん世界にはまつりがある中で博多の山笠だけは、何かがある。それが何か！というのはいじょうにみんな一人一人がでてみないとわかりません。これをよんでみても多くの人に山笠をして何よりきょう一人でも多くの人に山笠をしてほしいです。一人より二人、二人より三人、三人より四人……、いつか世界じゅうでできるくらい！！それが私の山笠だ！って思う時の考えです。私は山笠に出られないけれど、女子には「こりよんさん」という仕事があります。女からしたら「こりよんさん」がおるけん博多山笠はあるっていい！！と言っていました。そもそも「こりよんさん」とは、山をかく男の人達のために色々なお世話をします。私達は六年の時、「こりよんさん」たいいけんをしました。とてもきょう

な時間でした。それに自分達も山に参加しているようで、すてきな時間でした。もしおとなになつてもやれるのであればやりたいです。今思っても「こりよんさん」もそうとう大変です。山笠にける男の人達も大変だけれど、「こりよんさん」も同じくらい大変なんです。だからもっと自分自身にきょうじようがある人がむいていてと思います。でも、本当に山が大好きであれば、それでじゅうぶんです。みなさんもこれからこの山笠をいつか下さる。

博多山笠

●博多中学校2年

吉村 和晃

はくは、博多山笠にでています。流れは黒流です。はくは、昨年か若手という存在になりました。若手はみんながごはんを食べる時はビールや酒をえらひ人についでりして、「こりよん」はあまり食べることができなかつたりすることもありますが、みんなが食べた後は片付けもしなければいけません。でも、はくはそういう若手の仕事はきらいではありません。

その理由はみんなに見返したりできるチャンスなので、いっぱい仕事をすればもっとみんなに見てもらえるチャンスだからです。そして今年、流れ昇の時、台上りをさせてもらうことになりました。はくは、子供山笠は二回させてもらったことはあつたけど、大人の山笠は今回がはじめてだったし、大人の山笠はスピードも速いのでとてもきょうじようしてました。場所は、この替わりの川端商店街から博多マリインまでです。そして、いかに流れ昇の日になりました。昇出が終わると、あつというまに川端商店街に入りました。はくは胸がバクバクしていました。そして、はくは山笠の台に上がりました。「ヤー」という声に続いて「オイスアオイスア」という声が響きわたりました。はくははたがむしやらに「オイスアオイスア」と叫んでいました。そして、台からおりた後、「ガンバツタぞー」という気持ちでいっぱいでした。あの時の気持ちはこれから、高校生、大人になつても忘れられない思い出になりました。そし

て、追い山の日に、若手はみんなの集合時間より四時間も前に集合しないといけません。なので、とてもきょうじようだったけど、「今日が最後の日のガンバツタぞー」と思うと、いつの間にかきつなくなっていました。そして、はくはいつもと同じ子供の世話役が担当だけれど重要な役割なので、「まじでがんばらない」と思っていました。時間経過ついに博多山笠の所まで来ました。博多山笠は博多山笠の中で最も大きなイベントなので、みんなも気合いが入っていました。「三、二、一、ヤー」という声と同時に山は動き出しました。しかし記録は三十五秒で五位でした。はくは無事に子供をつれて走り終えることができました。そして最後に赤てのこいの人から後からタイムを発表しました。博多山笠のタイムは三十五秒で五位だけれど、全コースのタイムは二十九分一位というすばらしいタイムを出すことができました。そして最後にみんなが食べた皿やコップを片付けて山笠を無事終えることができました。はくはこの台上りができたことを一生の思い出にしたいです。そして山笠で学んだことを学校生活でも生かしていきたいと思います。

NPO博多の風賞

たのしい山かさ

●博多小学校2年

畑 捺穂

「おいさ、おいさ、おいさ」と大きなこえでどかかれるほど、こえをだしてました。山は、おもしろい。どのくらいおもしろいかわつたわつてきました。みんながはくははくはつたり、山をかいりするのをがんばつていました。「どんどん」とかきこえといっしょにたいこのおとがきこえてきました。はくはしているひのこえも、おとなやちゅうがくせいにもまけないほど、こえをだしてました。

NPO博多の風のあゆみ

平成	10年9月	任意団体「博多の風」設立 代表:大庭宗一
	同年10月	第1回博多の風フォーラム開催 講師:松本龍氏(衆議院議員)
平成	11年4月	第2回博多の風フォーラム開催 講師:倉田 真氏(毎日新聞編集局長)
	同年10月	第3回博多の風フォーラム開催 講師:沢田幸二氏(九州朝日放送アナウンサー)
平成	12年4月	第4回博多の風フォーラム開催 講師:坂口卓司氏(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年5月	大庭宗一と博多の風の仲間たち監修 『山笠の風』出版 同出版記念パーティ開催
	同年5月	NPO(特定非営利活動法人)認証取得 理事長:大庭宗一
	同年6月	NPO博多の風として登記
	同年10月	第5回NPO博多の風フォーラム開催 講師:緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
	同年11月	山笠交流会館建設提言書、福岡市長へ提出
平成	13年4月	第6回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤豊彦氏(福岡銀行相談役)
	同年5月	作文コンクール 「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(5/1~7/31)
	同年7月	「NPO博多の風フォーラム」 福岡県21世紀記念事業認証取得
	同年10月	福岡県21世紀記念事業 第7回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤久義氏(博多祇園山笠振興会会長) 永吉和幸氏(毎日新聞社福岡総局長) 緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
		「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 優秀作品表彰式
平成	14年4月	第8回NPO博多の風フォーラム開催 講師:安達一成氏(毎日新聞社記者)
	同年4月	「NPO博多の風ホームページ」開設
	同年5月	第1回 クリーン作戦開催
	同年6月	「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催
	同年6月	作文コンクール 「第2回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年10月	「NPO博多の風広報誌:風人」発行
	同年11月	第9回NPO博多の風フォーラム開催 講師:高橋慶彦氏(元プロ野球広島東洋カープ)
	同年11月	第2回 クリーン作戦開催
平成	15年4月	第10回NPO博多の風フォーラム開催 講師:永守良孝氏(RKB毎日放送株式会社 取締役)
	同年5月	第3回 クリーン作戦開催
	同年6月	「第2回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第3回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年11月	第11回NPO博多の風フォーラム開催 講師:奥田智子氏(九州朝日放送アナウンサー)
	同年11月	第4回 クリーン作戦開催
平成	16年4月	第12回NPO博多の風フォーラム開催 講師:ウー.C.リー氏(在福アメリカ領事館首席領事)
	同年5月	第5回 はかたの町クリーン作戦(雨天中止)
	同年6月	「第3回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第4回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年10月	第13回NPO博多の風フォーラム開催 講師:富永倫子(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年11月	第6回 はかたの町クリーン作戦開催
平成	17年4月	第14回NPO博多の風フォーラム開催 講師:松田浩氏(アビスパ福岡監督)
	同年5月	第7回 はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第4回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第5回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/1)
	同年10月	第15回NPO博多の風フォーラム開催 講師:大庭宗一(NPO博多の風理事長)
	同年11月	第8回 はかたの町クリーン作戦開催
平成	18年4月	第16回NPO博多の風フォーラム開催 講師:平田大(南方詩人)
	同年5月	第9回 はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第5回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第6回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」



NPO特定非営利活動法人



〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16 -302

FAX 092-263-7188

E-Mail npokaze@juno.ocn.ne.jp

URL http://hakatanokaze.jp

NPO博多の風事業概要

- 博多の町の伝統文化を次世代に引き継ぐ啓発事業
- 「博多の風フォーラム」の定期開催
- 博多の町の地域振興活動
「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」事業
- 博多の町の地域清掃活動「クリーン作戦」事業
- 「祭り童子集まれ!楽文コンテスト」事業
- 山笠山台の技術継承活動事業
- 博多祇園山笠振興に関する活性化事業のお手伝い
- 青少年スポーツ振興に関する支援・協力事業

題字:新井光寿

